

午後試験

問 1

問 1 では、顧客情報の名寄せ処理について出題した。全体として正答率は高く、処理の概要についてはおおむね理解されているようであった。

唯一、3 件のレコードを名寄せする場合を扱った設問 3 の h の正答率が、ほかと比べて低かった。

問 2

問 2 では、文書管理におけるセキュリティルールの適用について出題した。全体として正答率は平均的であったが、一部正答率の低い問題もあった。

特に、設問 1 の b, c の正答率が低かった。セキュリティルールの適用に当たっては、原則として例外は認められない。解答に際しても、ルールの各項目を厳密に適用する必要がある。

問 3

問 3 では、SQL によるデータベースの利用（設問 1, 2）とグラフによるデータの分析（設問 3）について出題した。全体として正答率は低かったが、中でも、設問 1 の a, 設問 2 の e 及び設問 3 の正答率が低かった。

SQL については、文法に関する知識を習得することは当然必要だが、それに加えて、作成した SQL 文で期待通りの出力が得られるかを検証し、必要に応じて修正する能力を身に付けてもらいたい。データの分析においては、各データの意味を正しく理解しておくことが不可欠である。特に、“前年同月比”や“達成率”といった比率を表すデータについて、何と何の比であるかに注意した上で、分析を行うようにしてもらいたい。

問 4

問 4 では、SSL の基本機能について出題した。全体として正答率は低く、日頃から利用する機会の多い SSL でありながら、十分な理解ができていない受験者が多かった。

中でも、設問 1 の b の正答率が低く、設問 3 では、正解イに対してウやエを選択する誤りが多かった。サーバ証明書の有効性確認、メッセージの暗号化、そしてメッセージダイジェストによるメッセージの真正性確認といった SSL の要素技術一つ一つについて、その目的と適用範囲が正しく理解できていない結果と思われる。

問 5

問 5 では、パッケージソフトウェアの更新とそれに伴うデータ移行について出題した。全体として正答率は平均的であり、おおむね理解されているようであった。

設問 1 では、項目立ての異なる二つの表（表 1, 2）をとおして新、旧のパッケージソフトウェアを比較対照する必要があり、解答に戸惑う受験者がいたようで、正答率は低かった。

ほかにも、設問 2 の e, 設問 3 の k, 設問 4 の n などの問題で、解答が分散する結果となった。新、旧のパッケージソフトウェアにおける表面的なデータ管理方式の違いにとらわれてしまった結果と思われる。

問 6

問 6 では、E-R 図や DFD などのシステム設計に関する基本的な手法について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問 1 では、a, d 及び e の正答率が低かった。これらの問題については、現行システムにおけるデータベース構造と設問 1 で述べられているデータベース構造の変更内容をよく理解していれば、正解を導けるはずである。

設問 2 では、k 及び l の正答率が低かった。DFD を完成する際は、各処理が、どの表からデータを抽出し、どの表に処理結果を登録するかを理解しておくことが重要である。

問 7

問 7 では、アンケート結果の分析と解釈について出題した。全体として正答率は高かった。

中でも、設問 2 の g 及び h、並びに設問 3 の m の正答率が、ほかと比べて低かった。g 及び h については、設問 1 の表も合わせて分析する必要がある。m については、目の前の数値の大小ではなく、“重要度”と“現状評価”の意味するところを考える必要がある。

アンケート結果の分析に限らず、データ分析においては様々な図表を複合的に分析する必要がある。さらに、適切なアクションプランの立案には、分析対象に対する十分な理解が不可欠であることを知っておいてもらいたい。